



## 1 目指す学校

### スクールミッション

教育目標である「個性伸長」「創造自立」「共存共育」の下、多様化・弾力化した教育活動とキャリア教育を通じて、

- ・ 自己を深く見つめ能力や適性を発見する
  - ・ 社会に貢献できる能力や態度を養う
  - ・ 人権尊重の精神を培う
  - ・ 自主・自立の精神を培う
- その上で、社会で自信をもって自立し生き抜いていく力を育成する。

### スクールポリシー

#### グラデュエーション・ポリシー

- ① 将来に向けて学び続ける力の育成  
急速に変化する社会に対応できる知識や技能を習得・深化させていく教育
- ② 基本的生活習慣と規範意識の醸成  
社会の一員としてあるべき姿を理解し、他者と協働していくことができる教育
- ③ 自他を尊重する精神の育成  
他者を理解し、自己の在り方・生き方を見つめ、人権尊重の精神を涵養できる教育

#### カリキュラム・ポリシー

- ① 総合学科の特性を生かし、必履修科目と3系列（福祉・教養、情報・ビジネス、アート・デザイン）の選択科目を通して自己を見つめ、学ぶ中で自尊感情や帰属意識を高める。
- ② 単位制により74単位以上を取得する。英語、数学、国語をはじめ多くの科目で少人数教育を実現し、さらにチャレンジスクールの役割を踏まえ、再履修科目や多くの特色ある学校設定科目を設置し、個々の興味・関心・進路希望に応じたカリキュラム編成を行う。また、障害等種々の困難を主体的に改善・克服するため、自立活動を教育課程に位置付ける。

#### アドミッション・ポリシー

- ① 基礎・基本に加え社会生活に役立つ知識・技能・態度を身に付けようとする生徒
- ② 3系列（福祉・教養、情報・ビジネス、アート・デザイン）の学習を通して、社会で自立できる技術や資格を身に付けるとともに、社会のルールやマナーを守り、他人に配慮できる生徒
- ③ 体験学習や学校行事・部活動などを通して、心のふれあいを大切にし、豊かな人間関係を育み、地域や社会に積極的に関わろうとする生徒

## 2 中期的目標とその達成に向けた方策

- 1 生徒の学力を把握し、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、主体的・対話的な活動を重視した体験的な学習やICT機器を活用した学習を通して生徒の学ぶ意欲を喚起し、習熟度別や少人数授業等、個別最適な学習を提供しながら生徒の学習不安の払拭と学力の定着・伸長を図る。
- 2 生徒の興味・関心、希望進路・適性に応じた各系列に関わる専門科目やキャリアデザインに応じた科目履修により将来に生きる知識や技能を習得させ、活用することで達成感を実感させる。
- 3 地域や関係機関と連携し、福祉・環境・国際理解等に関する多様な体験学習を推進し、生徒の自己肯定感や社会性を育成する。
- 4 社会人として身に付けるべき規範意識と、自律して行動できる素養と態度を育成する。
- 5 人権を尊重する態度の育成に努め、体罰やいじめのない学校づくりに全校体制で取り組む。
- 6 キャリア教育を意図的・計画的に推進し、社会に参画する素養を育て進路決定率を向上させる。
- 7 学校行事や部活動等の特別活動を通して、生徒の自己肯定感を実感させる。
- 8 教育相談部と年次、他分掌との連携を通して、組織的な学校教育相談体制を維持する。
- 9 健康講話や薬物乱用防止教室などを充実させ、生徒の適切な判断力と行動力を育成する。
- 10 情報発信機能を強化し、地域等との共催行事を充実させ、生徒の自己肯定感を育成する。
- 11 評価活動や校内研修を推進し、教育活動全般を検証・改善しながら生徒の生きる力を育成する。
- 12 目指す学校に相応した生徒を受け入れるための募集広報活動を組織的に推進する。
- 13 教員が健康の保持・増進できる環境と、教員が誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備することにより、学校教育の質の維持・向上を図る。
- 14 ライフ・ワーク・バランスに配慮した組織運営を通して円滑な学校運営を実現し、組織的・計画的な校務運営を通して年次有給休暇や育児休業を取りやすい環境を維持する。
- 15 学校運営に合った予算の編成・執行と、各種給付金の手続きなどの円滑な運営を行う。
- 16 安全かつ円滑な旧校舎解体及び新校舎建築の進行管理及び教育活動の維持と学びの保障をする。
- 17 令和8年度新校舎完成を機にこれまでの取組成果を検証するとともに、学校運営上の課題を整理・検討することで、一層ニーズに応えられる「新生桐ヶ丘高校」を構築する。

## 3 今年度の取組目標とその達成に向けた方策

イノベーション人材やグローバル人材が求められる時代背景を意識しつつ「生徒がもつ可能性は無限大。今、明日、その芽を出すかも知れない。」を踏まえ、「安全・安心で落ち着く場所」「元気になる場所」「未来に対して前向きになれる場所」そんな学校づくりに努めながら以下に取り組んでいく。

### 学習指導

- 1 生徒の学力の把握に努め、以下の取組を通して、生徒の学習不安を払拭するとともに、学ぶ意欲を喚起し、授業出席率と履修率の向上とともに生徒の学力の定着・伸長を図る。
  - ① 体験的学習や言語活動等の協同的な学びに係る研修等を通して主体的・対話的で深い学びを推進
  - ② 習熟度別授業・少人数授業を生かした指導内容・指導方法の工夫・改善
  - ③ ICT機器はじめ一人1台端末の計画的な活用と、適宜オンライン学習の活用の推進
- 2 観点別評価の実施・検証やカリキュラムマネジメント等の研究を通して、全教員で計画的に教科横断的授業実践・改善に向けた研修を推進する。
- 3 成年年齢の引下げを踏まえ、社会の担い手の一人になれるよう、主権者教育の充実を図る。

### 進路指導

- 4 自己の在り方・生き方を見つめさせ、早期から有効な情報を提供し、中・長期的展望をもたせながら全教育活動を通して計画的にキャリア教育を推進し、卒業後の進路を実現させる。
- 5 各種検定試験等の資格取得に向けた指導の充実と、技能審査の成果に関する単位認定等を推進する。

### 生活指導

- 6 桐ヶ丘マナー10箇条・授業の受け方8箇条の遵守と行動を意識させ、社会人として身に付けるべき規範意識を醸成し、生徒一人一人に安心・安全な学校づくりの主役であることを自覚させ担わせる。
- 7 人権教育を通じて、多様化する時代において偏見や差別をなくしていく素養を育む。
- 8 自転車乗車時のヘルメット着用や地震等の自然災害への備えを通じて、自ら生命を守る素養を育む。

### 特別活動・部活動

- 9 生徒の個性の把握に努め、以下の教育活動を通して、生徒の自己肯定感、生命や人権を尊重する心、思いやりの心をもって豊かな人間関係をつくろうとする素養、望ましい食習慣を育成する。
  - ① ホームルーム活動
  - ② 生徒会活動
  - ③ 学校行事
  - ④ 部活動・委員会活動
  - ⑤ 地域連携・地域ニーズを活用した活動
- 10 東京2020オリンピック・パラリンピック教育レガシーを踏まえ、「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」を育成する。

### 健康づくり

- 11 生徒が自ら心身の健康づくりに取り組む態度と、そのための適切な行動選択及び判断力を育成する。
- 12 生活習慣病・がん・感染症等の予防に係る教育を、関係機関や家庭と連携し推進する。
- 13 発達段階や個性に応じて、スポーツに親しむ態度やスポーツを通して社会性を育成するとともに、体力の向上を図る。
- 14 学校給食等による食育を通じて、生涯にわたって健康的な食生活を営んでいく素養を育成する。

### 募集・広報活動

- 15 「目指す学校」に対する教職員の共通理解を図り、学校訪問、学校見学会・説明会、ホームページ管理を通して組織的に募集・広報活動を推進し、本校にマッチした生徒を一人でも多く入学させる。

### 様々な困難を抱える生徒を取り残さないきめ細かな取組

- 16 アセスメント・シートやパーソナル・ファイル等を作成・活用し、丁寧に個別指導にあたることで生徒の円滑な学校適応を図る。
- 17 学校とつながる居場所を通じて、関係スタッフと協同して学びの保障はじめ生徒の身体面・心理面・社会面からの支援の充実を図る。

### 学校経営・組織体制

- 18 予算の適正かつ効果的な編成・執行や各種支援金の手続き等を通して、経営参画型経営企画室機能の充実と、教員との連絡調整を密にして効果的な学校経営に資する。
- 19 全教職員で業務の効率化を検討・実践し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現と、教職員の在校時間を縮減、年次有給休暇の取得に資する。
- 20 全教職員で協同し体罰はじめハラスメント等の服務に係る事故を未然に防ぐ。
- 21 全教職員で情報共有と共通理解に努め、特別支援教育の理解促進と、重層的な教育相談を推進する。また、生徒の実態に応じた指導・支援の研究・実践と合理的配慮に努める。
- 22 新校舎建築の進行管理と、同環境下での教育活動を最大限に工夫し維持する。
- 23 令和8年度新校舎完成を機に、一層ニーズに応えられる「新生桐ヶ丘高校」を構築する。

## 4 数値目標

履修率	80%	検定合格者数	延べ200名	卒業生の進路決定率	75%
部活動加入率	60%	学校行事満足度	80%	学校説明会等来校者数	延べ700名
学校HP更新回数	250回	学校生活満足度	80%		